

JFTP NEWS

Japan's Friendship Ties Programs



日本の海で新種の海藻を発見した ミン・キャン・キョーさん ▶

Inspiring STEM Alumni in Japan



日本で躍進する理系同窓生

- 01. JENESYS 2016 ミン・キャン・キョーさん (ミャンマー)
- 02. JENESYS 2007 チャンタウォン・プーワンさん (ラオス)

【JFTP PRESS】

すべての人に"きっかけ"を一

カケハシ同窓生・関 貴大さん「きっかけポータル」代表

2026
08

ISSUE
22
No.



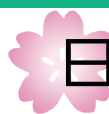
ミャンマー

ミン・キャン・キョーさん

Mr. Min Khant Kyaw

JENESYS

- ・ マイクロンメモリジャパン株式会社 クオリティマネジメントエンジニア
- ・ 広島大学大学院 博士課程修了（生物資源科学）
- ・ 2016年度JENESYS参加者 ミャンマー第3陣（文化）
- ・ 参加当時：大学生



日本の海で新種の海藻を発見

日本で見つけた研究者への道

JENESYSは、私の人生を次のレベルへと引き上げてくれた出発点です。ミャンマーのヤンゴン大学で植物学を専攻していた私にとって、JENESYSへの参加は初めての海外渡航で、長年の夢だった日本を訪れる最高の機会でした。父の勧めで日本語を学んでいたこともあり、参加者に選ばれたときは本当に嬉しかったです。

JENESYSで福井県を訪れて、ホストファミリーと裸で温泉に浸かった文化の衝撃や、伝統衣装でのダンス披露など、温かい交流は今も忘れられません。しかし、何より私の心を動かししたのは、福井大学の学生たちとの出会いでした。日本のハイテクで質の高い研究環境に圧倒されると同時に、着実に研究を重ねながらも、アルバイトなどの私生活とバランスを保つ彼らの姿勢に大きな刺激を受けました。「この国で、本気で研究がしたい」。帰国後、私の心は日本への留学へと完全に固まりました。

研究の最前線で夢を実現

その後、2018年に広島大学（以下、広大）の「CLMV諸国の持続可能な平和、幸福、発展に貢献する研究力と社会起業力の融合人財育成（PEACEプログラム）」に参加して、海藻研究の世界的権威である教授と出会いました。

広大に留学することを決意し、運よく国費外国人留学生に選ばれ、修士課程と博士課程で生物資源科学を学びました。研究室では留学生が私だけだったので、日本人学生と英語と日本語を混ぜて会話していました。



◀ 広島大在学中、三重県の英虞湾（あごわん）でフィールドワーク中のミンさん

フィールドワークで屋久島を巡ったり、北海道から熊本県まで縦断したりして、DNA分析で海藻を分類する日々はとても充実していました。

海藻は、人口増加に伴う地球規模の食料不足を救う資源として、また海の環境を守る存在として注目されています。広大での研究を通じて、私は「どんな海藻が環境や人類に有益なのか」を解き明かすことに情熱を注ぎました。博士課程の研究で、いくつかの海藻の新種を発見し、発表することができました。途上国出身の私が新種の海藻を見つけるなんてかつては夢のようでしたが、周囲の支えでそれを実現させることができました。

JENESYSはかけがえのない財産

広大瀬戸内カーボンニュートラル国際共同研究センターでのポストドクターの任期を終え、この春からは、世界的な半導体メーカーであるマイクロンテクノロジーの日本法人で、クオリティマネジメントエンジニアとして新たな一歩を踏み出しています。工場が広島にあるので、今でも広島に住んでいます。将来的には、母国ミャンマーの環境や学術の発展にも、貢献していきたいと考えています。

ミャンマーでは海外文化や最先端の学術研究に触れる機会が限られているので、JENESYSのようなプログラムは若者の可能性を広げるかけがえのない存在です。このプログラムがこれからも多くの学生の背中を押し、世界へ羽ばたく転機となり続けることを心から願っています。

▼ JENESYSで福井大学の学生たちと交流





チャンタウォン・プーワンさん

JENESYS

ラオス

Mr. Chanthavong Phouvanh

- ・ 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
- ・ 2007年度JENESYS参加者
- ・ 参加当時：高校生



ラオス医療の未来に貢献する学びを日本で

JENESYSが結んだ絆

幼い頃から『ドラえもん』などのアニメに親しんでいて、日本文化は身近な存在でした。現在、大阪大学大学院で医学研究に打ち込む原点は、10代の頃に参加したJENESYSにあります。

友人から勧められて受けたJENESYSの面接に合格し、初めて日本を訪れました。当時の私にとって、歴史あるお寺と近代的なビルが混在する東京の街並みはとても印象深いものでした。

長野県飯田市でのホームステイも忘れられません。ホストファミリーに朝早く起こされて見た富士山の美しさや、初めて見た雪を舐めてみて「味がしない」と驚いたことを、今でも鮮明に覚えています。日本滞在を通じて、街の清潔さ、人々の礼儀正しさ、そして時間をきちんと守る姿勢に感銘を受けたことは、その後の私の価値観に大きな影響を与えました。ホストシスターが通っていた高校での学校交流では、日本の茶道を体験し、多くの日本人の友人ができました。ホストシスターとは、帰国後も長年にわたって交流が続いています。

再び日本へ向かう決意

高校卒業後は、私自身のルーツがあるベトナムに留学して、医学を学びました。

その後、故郷であるラオスのサワンナケートに戻り、医師として4年間、地域の医療に貢献しました。しかし、そこで直面したのがラオスの医療体制の遅れです。20年前の古い知識がアップデートされていなかったり、他国の教科書がそのまま使われていたりする現状を目の当たりにして、「このままではいけない」と危機感を抱きました。

より高度な医学の知識とスキルを身につけ、それを故郷に還元したいと考え、再び海外での学びを志しました。数ある選択肢の中で選んだのは、医療研究の分野で高い評価を得ていて、かつてJENESYSで訪れて強い絆を感じていた日本でした。国費外国人留学生のことを知った後、2週間で急いで準備をして応募し、運よく合格。日本留学の切符を掴み取ることができました。

両国の架け橋として

ラオスで深刻な問題となっている高血圧について深く学びたいと考え、日本の医学論文を読み込む中で、大阪大学の先生の研究への姿勢に強く惹かれました。オンラインでの面談を経て、その印象は確信に変わりました。2024年4月に来日し、まずは研究生として学び、2025年4月から博士課程の学生として研究に打ち込んでいます。大阪での生活が始まってから、日本国内の学会で発表をしたり、筆頭著者を務めた家庭での血圧測定に関する論文が国際的な学術誌に掲載されたり、京都の高校で生徒たちと交流したり…専門的にも個人的にも成長することができていると感じています。将来は、日本で学んだ知識を活かし、ラオスの首都だけでなく、私の故郷のような小さな町にも質の高い医療を届けたいです。

日本高血圧学会に参加したときのプーワンさん(左)。右は大阪大学で指導教官の神出 計(けい)教授 ▶



▶ 大阪大学の研究室の皆と

▲ JENESYSのホストファミリーとプーワンさん(前列中央)



すべての人に"きっかけ"を— 「きっかけポータル」 関 貴大さん

(2015年度カケハシ参加者)

「すべての人に平等な"きっかけ"を」をモットーに、若者が参加できる海外プログラムの情報を発信するポータルサイト「きっかけポータル」。

このサイトを運営するのは、2015年度のカケハシ・プロジェクト（以下、カケハシ）のアメリカ大学生派遣に参加した関貴大さんです。本業の傍らで社会貢献事業に邁進する関さんに、活動の原動力や目標を伺いました。

■ 国際交流への第一歩とカケハシでの経験

理工系学部の学生だった関さんは、漠然と海外に興味はあったものの、当初から海外志向が特別強かったわけではありませんでした。しかし、大学の国際交流センターで日本語ボランティアを経験したことで、留学生との交流の面白さに目覚め、大学のホームページでカケハシの募集を見つけて応募しました。

プログラムの中で最も印象に残っているのは、ラテンアメリカ系移民が多く通う現地の高校への訪問だといいます。日本文化を紹介するプレゼンテーションでは生徒たちが積極的に参加し、終了後には「初めて日本人に会った」と話しかけられるなど、日本での日常では得られない大きな刺激を受けました。この経験が、関さんのその後の活動に大きな影響を与えることになります。

■ 「きっかけポータル」立ち上げの背景

現在、関さんは日本IBMのコンサルタントとして、AIなどのテクノロジーを活用したサステナビリティやサプライチェーン領域のコンサルティング業務を行っています。その本業の傍ら、2023年秋に「きっかけポータル」を立ち上げました。

設立の背景には、関さん自身の学生時代の気づきがあります。「お金はないけれど海外に行きたいと願う学生が多い一方で、カケハシのような渡航費等の負担がない有意義なプログラムは広くは知られていないんです」。自身もカケハシのほか、他財団のプログラムで中国やスペインへ行くなど、複数の海外経験を持つ関さんは、「一度チャンスを知れば次を探せるが、最初の『きっかけ』がないと気づけない。情報を集約して発信すれば、若者の役に立てるはず」と考え、きっかけポータルを開設しました。

■ 社会への貢献を原動力に

現在、関さんは一般社団法人としてきっかけポータルを運営。発信するプログラムの選定や記事制作、発信に関さん中心に行っています。X（旧Twitter）のフォロワー数は2026年8月現在、約2万5千人に達し、ほぼ毎日情報発信を続けています。

多忙な日々の中で関さんを活動へと突き動かすモチベーションは、「世の中の役に立っている」という実感です。利用者から「プログラムを知って参加できた」とお礼のメッセージが届くことが、大きな喜びと原動力になっています。学生時代の一つの経験を原点に、関さんはこれからも「きっかけポータル」を通じて、次世代の若者たちへ未来を開く新たなチャンスをお届け続けていきます。



カケハシでサンフランシスコを訪問
(関さんは前列左から2番目)



きっかけポータル

<https://kikkakeportal.com/>

Webサイトはこちら ⇨ ⇨ ⇨





一般財団法人日本国際協力センター（JICE）は、主に日本国政府や地方自治体、企業からの依頼に応じ、世界各国の社会開発課題に資する人材育成のお手伝いや日本についての理解を促進する事業を展開しています。

JFTP News 第22号 2026年8月28日発行

編集・発行：一般財団法人 日本国際協力センター（JICE）国際交流部
EMAIL: kokusaikoryu@jice.org

JICEについて詳細はHPをご覧ください。
<https://www.jice.org>

●本誌掲載の記事、写真などの無断転載を禁じます。
©2026 JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION CENTER

